

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38701000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市米湊855番地11
自己評価作成日	H21年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

車椅子利用者・自立・歩行介助にかかわらず、いつでも利用者全員が参加できるように支援を目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは明るい雰囲気があり、玄関を一步入ると、利用者が笑顔で「こんにちは！」と迎えてくれる。「悔いの残らないお世話を」という基本理念を実践するために、管理者を中心に職員が思いをひとつにして生活支援に取り組んでいる。具体的に作成した介護計画を職員が日々検討し、毎月評価もして利用者本位の支援に努めている。協力医療機関がホームの近所にあるため、健康管理においても安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホーム ユニットいよA棟

記入者(管理者)

氏名 三浦 洋子

評価完了日 平成21年 11 月 26 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内の理念は職員の出社時、意識付けが出来る様に玄関やフロア・A棟B棟掲示版にはってあります。又自分達の言葉で理念を実行するための事柄を、ネームプレートの裏に書いて入れています。</p> <p>(外部評価) 『悔いの残らないお世話をさせていただきます』という理念を掲げ、地域に根ざして地域と共に生きることを目指している。また、年度毎の目標も立てており、職員は名札の裏に入れて常に確認しながら理念の実践につなげるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) いつでも挨拶を・・・から始めています。町内会への加入・行事参加、又ユニットいよ横の伝言ボードは町内からの希望で設置したもので、地域とユニットいよの情報交流の場として活用している。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、町内の行事にも積極的に参加している。また、地域からの要望によりホーム横に伝言ボードを設置しており、地域の行事案内やホームからの状況報告等を掲示して、地域とホームとの情報交換・交流の場として役立っている。</p>	ホームは2階にあり、利用者と地域の方が日常的に交流するのは容易ではない状況にあるが、近くの海岸や商店街への散歩の機会を通じて地域の方と顔を合わせる機会を増やすなど、より地域との付き合いを深める取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2項目に関連。伝言ボードは地域とユニットいよの交流の場です。地域のイベント情報やユニットいよの情報などそれぞれの話題の提供の場になっている。地域の研修の認知症サポーターも受講。オレンジリングも貰っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では【ユニットいよ】通信という毎月家族に送っているお便りを見ていただいたり、利用者と屋上でお茶タイムを楽しんだりして、出席の方に日常生活の一部を見ていただくなどの交流に努めている。	
			(外部評価) いちご狩り等の外出や、芋炊き・クリスマス会などの行事と運営推進会議を合同で行う等、利用者・会議参加者・ホームが交流を図りながら開催している。	行事中心の開催だけでなく、計画的にテーマを設けて意見交換し、出された意見等をサービスの質の向上に活かしていくことが望まれる。また、地域を支える人材を構成メンバーに加え、様々な立場からの意見を聞くことも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所へは介護保険の更新や手続きなどで出向く事も多く挨拶や声掛けで顔見知りになっている。その祭、伊予市の広報誌も持ち帰り、いろいろの行事などにも利用者と目を通してしている。	
			(外部評価) 市担当課と合同で認知症の方をサポートする研修会を開催したり、徘徊高齢者SOSネットワーク模擬訓練を実施したり、認知症の方への対応についてレポートを提出するなど、協働関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 見守りに努める事で、身体抑制はしない方向で取り組んでいる。施錠に関してはユニットいよ3階は本社・針灸部・居宅支援事業所などがあり防犯などの意味も含めてインターホン対応としているがユニットいよ内は開放している。	
			(外部評価) 「どんな時にも拘束は行わない」という意識を全職員が共有してケアにあたっている。車いすの利用者が多いが、できるだけ車いすで過ごす時間が固定化しないように気をつけている。直面している具体的な課題に関しても、勉強会で話し合い、検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は視線・言語・対応態度など広義の視点からとらえて防止に努めている。サービス向上委員会への研修参加で職員にも報告をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利を擁護する事は利用者を守る事。ひいては自分自身も守る事になる。サービス向上委員会（権利擁護・成年後見制度）への研修参加で職員にも報告、理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 基本的に契約に関しては誤解を生じないように入居希望者・家族・職員共に説明の際は複数参加としている。改定等があった場合は【ユニットいよ】通信でその都度報告をしている。（質問事項については、電話・来所時いつでも受ける旨も記載している。）	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族からの質問・意見・要望についてはその都度連絡をして説明をしている。又、運営推進会議でも報告・相談の機会を作っている。その経過については、必要に応じて職員へのミーティングも行なっている。 (外部評価) 利用者及び家族にも運営推進会議に参加してもらい、会議の中で意見等を出してもらおうよう工夫しているが、参加できる方がやや固定化しているため、利用者及び家族全体の意見が十分聞き取れているとまではいえない。	ホーム行事等、多くの家族が集まる機会を利用して気軽に話せる茶話会を開く等の工夫により、さらに家族が意見等を言いやすい場づくりに取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員からの意見や要望については、適宜ミーティングを行い、その内容を会長・社長・部長参加のホーム長会議で提案します。3階が本社なので上司との接点もあり、リラックスして提案事項の話をする事もあります。</p> <p>(外部評価) 管理者は、日頃から職員が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりに努めている。会長、社長、部長等運営者サイドも出席するホーム長会議を毎月開催しており、そこで職員からのさまざまな意見や要望等を検討して運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 本社が3階にあるのでお互いがよく見えます。指導もあればほめ言葉もあり、コミュニケーションは取れている。代表者が職員一人一人を理解しようと声掛けをよくしてくれている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) ほめて伸ばす。苦手は克服するための手段の一つとして情報提供。必ずしも全員が満足いく環境や条件ではないが、それを補う努力を代表者は考えている。(研修参加への協力・自由な意見交換・職員の発想や提案への理解など)</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修で顔をあわせたり、情報交換したり。地元出身職員も多く、日常的に接点もあり、交流の場はいたる所で自然に出来ている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 笑顔を忘れない。穏やかに会話をすすめる。利用者の表情を丁寧に読み取る。共に生きるをモットーに傾聴・共感に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初対面から入所・利用・・・とそのプロセスの中で、ゆっくりとお互いを理解していくよう、時間をかけながら話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今望んでいる事や将来的な事も含めて、臨機応変・優先順位の把握などがより早くより深く出来るように心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者・家族・職員に馴染みの関係がある事を良い方向に築いていけるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 傾聴・共感そして歩みよる心。理解しようとする努力から、たくさんの協力がうまれてくるし、相手の立場になれば、思いがけない部分の発見もあるはずなので、そういう関係を築いている。又、家族にも行事などのお知らせをして参加して頂くように依頼している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域密着のプラスとマイナスをきちんと見極めた上で、介入のボーダーラインをわきまえるように努めている。	
			(外部評価) ホームの近隣に住んでいた利用者が多く、利用者の希望や家族の意向等を汲み取りながら、馴染みの人や場所との関係を大切にした支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 20項目に関連して、利用者自身が馴染みの方と共同生活していく中で喜怒哀楽を感じ、共生していくことの理解へつながる方向をさがしている。【B棟】病気やその他の原因で自発語の少ない方も多いのでケアプランにとり入れて会話の時間を楽しめるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 地域密着の良い点は、例え契約終了でも何らかの関連を持って関わる日々のあること。その意味合いで訪問や電話・お見舞いは続いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全ての原点はまず相手を理解する事。相手の背景を把握していく中で見えてくる事がたくさんある。心や言葉はその時々で変化する事もあるが、どこかに見え隠れしている本音を探し出すように努めている。 (外部評価) 利用者との会話を重ねる中で、生活歴、思いや意向、希望等を把握し、その人らしい暮らしが送れるよう支援している。職員全員が情報を共有して支援に活かせるよう、記録の工夫にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員に地元出身者が多い事で、共有する情報が広がって、サービスに結びついている事がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) コミュニケーションを取る事で、思いがけない潜在能力や発見がある。個性を理解しながら、共生できる方向へ努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の意向を聞いた上で誰もが納得できる言葉で介護計画をたて、年齢を考慮してプランニングの方向を探しだす事とした。実情にそった計画を優先し、ディスカッションで方向を見つけだす。その後は共有した情報をぶれないようにして次のプランへ意向している。 (外部評価) 利用者の個別記録に介護計画の項目を記入し、毎月評価している。さらに3～6か月ごとの評価を基に利用者の状況を正確に把握し、カンファレンスで家族の意見や職員の気づきを出し合って、新たに計画を作成している。担当職員以外でも理解できるわかりやすい言葉を使うよう心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 一つの記録に関しても、職員間で共感と疑問がある。それをカンファレンスで話すことにより、職員の歩み寄りが出来、情報の共有へとつながる。職員の共感や疑問が見直しに活かされてくる事も多い。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 突発のデイサービス利用やショートステイ利用など柔軟な対応に心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で近隣の民生委員・老人相談員・ボランティアの方・町内の方など各職種の方との交流が広がってきているので、その方達から頂く情報も増えている。それを活用する事で、利用者の日常生活にもメリハリが出来てきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入所時、かかりつけ医師の確認をしています。但し、 緊急時には利用者・家族の確認・許可を得て適切な対 応をしています。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族の希望を確認しているが、法人代表者 の運営する医療機関をかかりつけ医にしている利用者 が多い。専門医への受診等が必要な場合にも、適切な 医療が受けられるよう支援している。受診の際は職員 も同行して、個々の健康状況を把握している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の既往・疾病に応じて定期的に受診・往診があ る。その際健康相談をしたり、指導を受けて健康管理 に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は、利用者⇄家族⇄病院⇄職員⇄ユニットいよ 間で連絡はスムーズに行えるよう、緊急連絡網を作っ ている。連絡ノートの用意やお見舞い時にナースス テーションに顔を出すなどして情報交換して、会社・ 職員に報告をし情報の共有に努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に将来的なことも含めて、終末期に向けた指針 の書面を提示している。なお今年度より利用者・家族 の希望を中心に内容の充実を会社ぐるみで検討してい る。しかし、すべてが書面で済むものではないので、 入居中の日常生活において人間関係の構築に努めている。</p> <p>(外部評価) 看取りの指針を作成しており、利用開始時に本人及び 家族に説明して意向を確認し、必要に応じて話し合い ながら取り組んでいる。さらに指針の充実を図るよう、 見直しも行っている。</p>	<p>利用者や家族だけでなく職員の気持ちや意向も段階ご とに確認しながら、話し合いを重ねて方針を共有して いくことが望ましい。職員は、状況に応じた適切な支 援ができるよう、さらに研修を重ねていくことを期待 したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは会社作成の物と、自分達の体験に基づいた言葉で創った物と2部ある。利用者の年齢を考えると急変は常に心に留め置いている。マニュアルはすぐに目のつく所に準備し、日常の中で緊急時を想定しながら、日々学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ユニットいよは2階にあるので水害時は3階への避難が可能だが、火災・地震については困難と予想される。年に2回の避難訓練を計画・実行しているが、今後、避難訓練に関しては、地域の方にも参加していただけるよう検討中。職員の緊急連絡網の徹底・近隣への声かけも積極的に行っている。 (外部評価) 年2回、消防署の指導を受けて避難訓練を行っている。また、防災頭巾や緊急避難セットを準備し、職員の連絡網の徹底や、近所の方への協力依頼にも取り組んでいる。車いすの利用者が多いが、ホームは2階で非常階段も1か所しかないため、避難誘導には不安を抱えている。	職員だけの避難誘導には限界があるため、夜間を想定しての避難訓練の実施や、地域の協力が得られるような働きかけ、地域との合同訓練の実施等について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の背景を把握する事で、誇りやプライバシーの確保が見えてくる。干渉や強制にならないように、職員同士の話し合いも適宜行っている。 (外部評価) 個人情報保護や守秘義務は職員全員が理解している。利用者の尊厳に配慮して、言葉かけや対応には十分気をつけており、特にトイレ、浴室、居室等はプライバシー確保を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 私達の目標の言葉の中に利用者の“自立支援に努めます。”を入れました。普段のコミュニケーションやスキシンプの中からさまざまな思いを感じ取れるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望は最優先ですが、ここは共同生活の場であるという理解をもって頂く事も大切な部分なので共生をお願いしています。利用者同士が妥協点や共感や助け合う気持ちを自然に言葉に出来るように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 鏡の前の自分を見るのは年齢に関係なくときめくのでは・・・朝起きて鏡の前で髪をきちんととかしたり、髭剃りを使っている姿はとてもさわやかです。小物は洗面所や居室など利用者のお気に入りの場所においてある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の楽しみの一つに食器がある。お互いの湯飲みやお茶碗を自慢に会話を楽しんでいる。好物への食欲、苦手なものへの挑戦、共同生活ならではのとらえ方ですすめ上手な利用者に助けられている部分も多い。準備・片付けはその日の気分で交代に利用者同士がこえをかけあって分担している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりが馴染みの食器を使用している。楽しく会話しながら食事がすすむよう、座席の配置等にも配慮し、職員を含め全員でおしゃべりしながら和やかに食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主治医師による食事摂取量の確認・排便・バイタルチェック体重の増減（毎週日曜日体重測定）チェックなど行っている。水分量は毎日個別記録に記載、ケアプランにも取り入れている。食事量がおちた時は主治医師に報告をし、指示を受けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回のハミガキ、夜間帯の入れ歯洗浄も利用者として就寝前のケアとして丁寧に行っている。必要に応じて歯科診療も家族の協力、確認のもとで行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツ・ポータブル・トイレ・利用者のその日の体調に合わせて、確認を取りながら臨機応変に対応している。基本は笑顔での対応としている。出来るだけ同性介助としている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンや日々の体調等に合わせて臨機応変に声かけや誘導を行うなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1ヶ月の排便チェック表を作り、医師・看護師の指導のもと、利用者に合わせて運動や食事内容の変更・服薬の把握などに努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1日の流れはありますが、基本は利用者の希望を優先している。但し、体調確認・声かけをして納得をした上で、一緒に入浴準備をし、入浴している。お風呂の窓を開けると伊予の海が見えます。時には一緒に入ります。	
			(外部評価) 声かけをまめに行い、その日の希望や体調等に合わせて入浴できるよう配慮している。毎日入浴することも可能で、気の合う職員が介助することで、くつろいで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中を穏やかに過ごして頂く事で安眠に繋げている。利用者と一緒にシーツ交換・布団干しなどを行い、安心して気持ちよく眠れる状況を作っている。不眠の時や気持ちが落ち着かない時は、状況に合わせて側で休む事もあります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の既往症・服薬について看護師に質問したり、お薬手帳を確認している。屯用薬が出た場合、申し送りをきちんとしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者、1人1人に担当をつけ、話の時間を取り、理解する事によりその人を理解している。レクリエーションや買い物・散歩など生活の中にメリハリをつけるようにして気分転換などの支援に結びつけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出・散歩などは、近くの五色浜海岸・伊予灘防波堤・町家・灘町商店街にゆっくりと歩いたり、車椅子で出かける。春・秋に【ゆったり・ゆっくりお花見バイキング】・【ゆったり・ゆっくり紅葉狩りバイキング】をドライブを兼ねて全員参加でおこなっている。 (外部評価) 車いすの利用者が多いが、近所の海岸や商店街等に散歩に出かけるなど、外気にふれる機会を多く持てるよう支援している。ドライブやイベント時には全員で車で出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望があれば、日用品やおやつなど、買い物にでかける。ユニット内におやつショップを開いて買い物をしていただく事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は各居室に設置している。季節に合わせて年賀状や暑中お見舞いなどを利用者が書いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンは2重にしている。壁には利用者の写真や作品などを貼っている。テーブルの上には、出来るだけ季節の花を用意して話題の提供にも努めている。	
			(外部評価) ホームは海岸近くの2階に位置し、窓からの景観も楽しめる。明るくゆったりとした居間には、テーブル・畳コーナーなどが配置され、思い思いに過ごせる場を確保している。浴室、トイレは清潔で、気持ち良く使用できるような気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室や屋上の涼み台・玄関フロアーなど、自由なスペースを用意している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に好きな家具・品物などは持ってきて頂いて、自由に設置働めている。居室は本人の自由な空間なので危険がない限りは干渉はしていない。	
			(外部評価) 趣味の作品、家族の写真、便りやプレゼントなど、利用者の思い思いの物が居室に持ち込まれ、プライバシーを大切にしながらその人らしい過ごし方ができるような工夫しており、安心できる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・風呂場の立位パー・廊下の手すりなど、必要に合わせて設置や表示している。日常のなかで気づきがあった場合は本社に依頼する事がある。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	38701000281
法人名	有限会社 ユニット・ワン
事業所名	グループホーム ユニットいよ
所在地	伊予市米湊855番地11
自己評価作成日	H21年 11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 12 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

車椅子利用者・自立・歩行介助にかかわらず、いつでも利用者全員が参加できるように支援を目標にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは明るい雰囲気があり、玄関を一步入ると、利用者が笑顔で「こんにちは！」と迎えてくれる。「悔いの残らないお世話を」という基本理念を実践するために、管理者を中心に職員が思いをひとつにして生活支援に取り組んでいる。具体的に作成した介護計画を職員が日々検討し、毎月評価もして利用者本位の支援に努めている。協力医療機関がホームの近所にあるため、健康管理においても安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 ユニット・ワン

(ユニット名) グループホーム ユニットいよB棟

記入者(管理者)

氏名 三浦 洋子

評価完了日 平成21年 11月 26日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所内の理念は職員の出社時、意識付けが出来る様に玄関やフロア・A棟B棟掲示版にはってあります。又自分達の言葉で理念を実行するための事柄を、ネームプレートの裏に書いて入れています。</p> <p>(外部評価) 『悔いの残らないお世話をさせていただきます』という理念を掲げ、地域に根ざして地域と共に生きることを目指している。また、年度毎の目標も立てており、職員は名札の裏に入れて常に確認しながら理念の実践につなげるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) いつでも挨拶を・・・から始めています。町内会への加入・行事参加、又ユニットいよ横の伝言ボードは町内からの希望で設置したもので、地域とユニットいよの情報交流の場として活用している。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、町内の行事にも積極的に参加している。また、地域からの要望によりホーム横に伝言ボードを設置しており、地域の行事案内やホームからの状況報告等を掲示して、地域とホームとの情報交換・交流の場として役立っている。</p>	ホームは2階にあり、利用者と地域の方が日常的に交流するのは容易ではない状況にあるが、近くの海岸や商店街への散歩の機会を通じて地域の方と顔を合わせる機会を増やすなど、より地域との付き合いを深める取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 2項目に関連。伝言ボードは地域とユニットいよの交流の場です。地域のイベント情報やユニットいよの情報などそれぞれの話題の提供の場になっている。地域の研修の認知症サポーターも受講。オレンジリングも貰っています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では【ユニットいよ】通信という毎月家族に送っているお便りを見ていただいたり、利用者と屋上でお茶タイムを楽しんだりして、出席の方に日常生活の一部を見ていただくなどの交流に努めている。	行事中心の開催だけでなく、計画的にテーマを設けて意見交換し、出された意見等をサービスの質の向上に活かしていくことが望まれる。また、地域を支える人材を構成メンバーに加え、様々な立場からの意見を聞くことも期待したい。
			(外部評価) いちご狩り等の外出や、芋炊き・クリスマス会などの行事と運営推進会議を合同で行う等、利用者・会議参加者・ホームが交流を図りながら開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所へは介護保険の更新や手続きなどで出向く事も多く挨拶や声掛けで顔見知りになっている。その祭、伊予市の広報誌も持ち帰り、いろいろの行事などにも利用者と目を通してしている。	
			(外部評価) 市担当課と合同で認知症の方をサポートする研修会を開催したり、徘徊高齢者SOSネットワーク模擬訓練を実施したり、認知症の方への対応についてレポートを提出するなど、協働関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 車椅子の利用者もB棟は多いが、見守りに努める事で、身体抑制はしない方向で取り組んでいる。施錠に関してはユニットいよ3階は本社・針灸部・居宅介護支援事業所があり防犯などの意味も含めてインターホン対応としているがユニットいよ内は開放している。	
			(外部評価) 「どんな時にも拘束は行わない」という意識を全職員が共有してケアにあたっている。車いすの利用者が多いが、できるだけ車いすで過ごす時間が固定化しないように気をつけている。直面している具体的な課題に関しても、勉強会で話し合い、検討している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は視線・言語・対応態度など広義の視点からとらえて防止に努めている。疾病のために自発語が出辛い利用者もいるが、時間をかけて理解に努めている。虐待をきちんと理解するために、サービス向上委員会への研修参加で職員にも報告をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利を擁護する事は利用者を守る事。ひいては自分自身も守る事になる。サービス向上委員会（権利擁護・成年後見制度）への研修参加で職員にも報告、理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 基本的に契約に関しては誤解を生じないように入居希望者・家族・職員共に説明の際は複数参加としている。改定等があった場合は【ユニットいよ】通信でその都度報告をしている。質問事項については、電話・来所時いつでも受ける旨も記載している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者・家族からの質問・意見・要望についてはその都度連絡をして説明をしている。又、運営推進会議でも報告・相談の機会を作っている。その経過については、必要に応じて職員へのミーティングも行なっている。 (外部評価) 利用者及び家族にも運営推進会議に参加してもらい、会議の中で意見等を出してもらうよう工夫しているが、参加できる方がやや固定化しているため、利用者及び家族全体の意見が十分聞き取れているとまではいえない。	ホーム行事等、多くの家族が集まる機会を利用して気軽に話せる茶話会を開く等の工夫により、さらに家族が意見等を言いやすい場づくりに取り組むことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員からの意見や要望については、適宜ミーティングを行い、その内容を会長・社長・部長参加のホーム長会議で提案します。3階が本社なので上司との接点もあり、リラックスして提案事項の話をする事もあります。</p> <p>(外部評価) 管理者は、日頃から職員が気軽に意見を言えるような雰囲気づくりに努めている。会長、社長、部長等運営者サイドも出席するホーム長会議を毎月開催しており、そこで職員からのさまざまな意見や要望等を検討して運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 本社が3階にあるのでお互いがよく見えます。指導もあればほめ言葉もあり、コミュニケーションは取れている。代表者が職員一人一人を理解しようと声掛けをよくしてくれている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) ほめて伸ばす。苦手は克服するための手段の一つとして知識と情報の提供。必ずしも全員が満足いく環境や条件ではないが、それを補う努力を代表者は考えている。(研修参加への協力・自由な意見交換・職員の発想や提案への理解など)</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修で顔をあわせたり、情報交換したり。地元出身職員も多く、日常的に接点もあり、交流の場はいたる所で自然に出来ている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 笑顔を忘れない。穏やかに会話をすすめる。利用者の表情を丁寧に読み取る。共に生きるをモットーに傾聴・共感に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初対面から入所・利用・・・とそのプロセスの中で、ゆっくりとお互いを理解していくよう、時間をかけながら話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今望んでいる事や将来的な事も含めて、臨機応変・優先順位の把握などがより早くより深く出来るように心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者・家族・職員に馴染みの関係がある事を良い方向に築いていけるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 傾聴・共感そして歩みよる心。理解しようとする努力から、たくさんの協力がうまれてくる。相手の立場になれば、思いがけない部分の発見もあるはずなので、そういう関係をめざしている。又、家族にも行事などのお知らせをして参加して頂くように【ユニットいよ】通信やお電話・来所時に依頼している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域密着のプラスとマイナスをきちんと見極めた上で、介入のボーダーラインをわかまえるように努めている。 (外部評価) ホームの近隣に住んでいた利用者が多く、利用者の希望や家族の意向等を汲み取りながら、馴染みの人や場所との関係を大切にした支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 20項目に関連。病気やその他の原因で自発語の少ない方も多いのでケアプランにとり入れて会話の時間を楽しめるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 地域密着の良い点は、例え契約終了でも何らかの関連を持って関わる日々のあること。その意味合いで訪問や電話・お見舞いは続いている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 全ての原点はまず相手を理解する事。相手の背景を把握していく中で見えてくる事がたくさんある。心や言葉はその時々で変化する事もあるが、どこかに見え隠れしている本音を探し出すように努めている。 (外部評価) 利用者との会話を重ねる中で、生活歴、思いや意向、希望等を把握し、その人らしい暮らしが送れるよう支援している。職員全員が情報を共有して支援に活かせるよう、記録の工夫にも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員に地元出身者が多い事で、共有する情報が広がって、サービスに結びついている事がある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) コミュニケーションを取る事で、思いがけない潜在能力の発見がある。個性を理解しながら、共生できる方向へつながるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人や家族の意向を聞いた上で誰もが納得できる言葉で介護計画をたて、年齢・疾病を考慮してプランニングの方向を探しだす事としている。実情にそった計画を優先し、ディスカッションで方向を見つけだす。その後は共有した情報をぶれないようにして次のプランへ移行している。</p> <p>(外部評価) 利用者の個別記録に介護計画の項目を記入し、毎月評価している。さらに3～6か月ごとの評価を基に利用者の状況を正確に把握し、カンファレンスで家族の意見や職員の気づきを出し合って、新たに計画を作成している。担当職員以外でも理解できるわかりやすい言葉を使うよう心がけている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 一つの記録に関しても、職員間で共感と疑問がある。それをカンファレンスで話すことにより、職員の歩み寄りができ、情報の共有へとつながる。職員の共感や疑問が見直しに活かされてくる事も多い。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 突発のデイサービス利用やショートステイ利用・時間延長など柔軟な対応に心掛けている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 運営推進会議で近隣の民生委員・老人相談員・ボランティアの方・町内の方など各職種の方との交流が広がってきているので、その方達から頂く情報も増えている。それを活用する事で、利用者の日常生活にもメリハリが出来てきている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時、かかりつけ医師の確認をしています。但し、 緊急時には利用者・家族の確認・許可を得て適切な対 応をしています。 (外部評価) 利用者及び家族の希望を確認しているが、法人代表者 の運営する医療機関をかかりつけ医にしている利用者 が多い。専門医への受診等が必要な場合にも、適切な 医療が受けられるよう支援している。受診の際は職員 も同行して、個々の健康状況を把握している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の年齢・既往・疾病に応じて定期的に受診・往 診がある。その際健康相談をしたり、指導を受けて健 康な日常生活が送れるように努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、利用者⇄家族⇄病院⇄職員⇄ユニットいよ 間で連絡はスムーズに行えるよう、緊急連絡網を作っ ている。連絡ノートの用意やお見舞い時にナースス テーションに顔を出すなど情報交換して、会社・職員 に報告をし情報の共有に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に将来的なことも含めて、終末期に向けた指針 の書面を提示している。なお今年度より利用者・家族 の希望を中心に内容の充実を会社ぐるみで検討してい る。しかし、すべてが書面で済むものではないので、 入居中の日常生活の中での人間関係の構築に努めてい る。 (外部評価) 看取りの指針を作成しており、利用開始時に本人及び 家族に説明して意向を確認し、必要に応じて話し合い ながら取り組んでいる。さらに指針の充実を図るよ う、見直しも行っている。	利用者や家族だけでなく職員の気持ちや意向も段階ご とに確認しながら、話し合いを重ねて方針を共有して いくことが望ましい。職員は、状況に応じた適切な支 援ができるよう、さらに研修を重ねていくことを期待 したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルは会社作成の物と、自分達の体験に基づいた言葉で創った物と2部ある。利用者の年齢を考えると急変は常に心に留め置いている。マニュアルはすぐに目のつく所に準備し、日常の中で緊急時を想定しながら、日々学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ユニットいよは2階にあるので水害時は3階への避難が可能だが、火災・地震については困難が予想される。年に2回の避難訓練を計画・実行しているが、今後、避難訓練に関しては、地域の方にも参加していただけるよう検討中。職員の緊急連絡網の徹底・近隣への声かけも積極的に行っている。 (外部評価) 年2回、消防署の指導を受けて避難訓練を行っている。また、防災頭巾や緊急避難セットを準備し、職員の連絡網の徹底や、近所の方への協力依頼にも取り組んでいる。車いすの利用者が多いが、ホームは2階で非常階段も1か所しかないため、避難誘導には不安を抱えている。	職員だけの避難誘導には限界があるため、夜間を想定しての避難訓練の実施や、地域の協力が得られるような働きかけ、地域との合同訓練の実施等について検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の背景を把握する事で、誇りやプライバシーの確保が見えてくる。干渉や強制にならないように、職員同士の話し合いも適宜行っている。 (外部評価) 個人情報保護や守秘義務は職員全員が理解している。利用者の尊厳に配慮して、言葉かけや対応には十分気をつけており、特にトイレ、浴室、居室等はプライバシー確保を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 私達の目標の言葉の中に利用者の“自立支援に努めます。”を入れている。普段のコミュニケーションやスキミングの中からさまざまな思いを感じ取れるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望は最優先ですが、ここは共同生活の場であるという理解をもって頂く事も大切な部分なので共生をお願いしています。利用者同士が妥協点や共感や助け合う気持ちを自然に言葉や態度に出来るように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 鏡の前の自分を見るのは年齢に関係なくときめくのでは・・・朝起きて鏡の前で髪をきちんととかしたり、髭剃りを使っている姿はとてもさわやかです。小物は洗面所や居室など利用者のお気に入りの場所においてある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の楽しみの一つに食器がある。お互いの湯飲みやお茶碗を自慢に会話を楽しんでいる。好物への食欲、苦手なものへの挑戦、共同生活ならではのとらえ方ですすめ上手な利用者に助けられている部分も多い。準備・片付けはその日の気分で交代に利用者同士がこえをかけあって分担している。 (外部評価) 利用者一人ひとりが馴染みの食器を使用している。楽しく会話しながら食事がすすむよう、座席の配置等にも配慮し、職員を含め全員でおしゃべりしながら和やかに食事の時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 主治医師による食事摂取量の確認・排便・バイタルチェック体重の増減（毎週日曜日体重測定）チェックなど行っている。水分量は毎日個別記録に記載、ケアプランにも取り入れている。食事量がおちた時は主治医師に報告をし、指示を受けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後3回のハミガキ、夜間帯の入れ歯洗浄も利用者や就寝前のケアとして丁寧に行っている。必要に応じて歯科診療も家族の協力、確認のもとで行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツ・ポータブル・トイレ・利用者のその日の体調に合わせて確認を取りながら、臨機応変に対応している。基本は笑顔での対応。出来るだけ同性介助としている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンや日々の体調等に合わせて臨機応変に声かけや誘導を行うなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1ヶ月の排便チェック表を作り、医師・看護師の指導のもと、利用者に合わせて運動や食事内容の変更、必要に応じた服薬の把握などに努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一日の流れはありますが、基本は利用者の希望を優先している。但し、体調確認・声かけをして納得をした上で、一緒に入浴準備をし、入浴している。お風呂の窓を開けると伊予の海が見えます。時には一緒にお風呂に入る時もある。	
			(外部評価) 声かけをまめに行い、その日の希望や体調等に合わせた入浴できるよう配慮している。毎日入浴することも可能で、気の合う職員が介助することで、くつろいで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中を穏やかに過ごして頂くことで安眠につなげている。シーツ交換・布団干しなどを行い、安心して気持ちよく眠れる状況を作っている。不眠の時や気持ちが落ち着かない時は、さりげなく側で休む事もあります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の既往症・服薬について看護師に質問したり、お薬手帳を確認している。屯用薬が出た場合、申し送りをきちんとしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人一人に担当者をつけて、お話がゆっくり出来るように時間を作ります。《したい事》《したくない事》《出来る事》《出来ない事》その時その時で気持ちや考えが変わるかもしれないが、“その時”の“その気持ち”を尊重するようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出・散歩などは、近くの五色浜海岸・伊予灘防波堤・町家・灘町商店街にゆっくりと歩いたり、車椅子で出かける。春は“ゆったり・ゆっくりお花見バイキング”秋は“ゆったり・ゆっくり紅葉狩りバイキング”をドライブを兼ねて利用者2名職員2名で2週間ほどかけ、全員参加できるように支援している。 (外部評価) 車いすの利用者が多いが、近所の海岸や商店街等に散歩に出かけるなど、外気にふれる機会を多く持てるよう支援している。ドライブやイベント時には全員で車で出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望があれば、日用品やおやつなど、買い物にでかける。ユニット内におやつショップを開いて買い物をしていただく事もある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は各居室に設置している。季節に合わせて年賀状や暑中お見舞いなどを利用者書いている。居室使用が困難な利用者はステーションでお話できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングに温度計と湿度計を設置、9時16時に適温確認して換気には注意を払っている。カーテンは2重にしている。壁には利用者の写真や作品などを貼っている。テーブルの上には、出来るだけ季節の花を用意して話題の提供にも努めている。</p> <p>(外部評価) ホームは海岸近くの2階に位置し、窓からの景観も楽しめる。明るくゆったりとした居間には、テーブル・畳コーナーなどが配置され、思い思いに過ごせる場を確保している。浴室、トイレは清潔で、気持ち良く使用できるよう気をつけている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 和室や屋上の涼み台・玄関フロアーなど、自由なスペースを用意している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に好きな家具・品物などは持ってきて頂いて、自由な配置を勧めている。居室は本人の自由な空間なので危険がない限りは干渉はしていない。</p> <p>(外部評価) 趣味の作品、家族の写真、便りやプレゼントなど、利用者の思い思いの物が居室に持ち込まれ、プライバシーを大切にしながらその人らしい過ごし方ができるよう工夫しており、安心できる空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ・風呂場の立位バー・廊下の手すりなど、必要に合わせて設置や表示している。日常生活の中で気づきがあった場合は本社に依頼する事がある。</p>	